



豆田ゆう子  
の  
12月議会報告

～生活って政治！！ Let's 市民力～

12月議会は、先決処分1件を承認、副市長の任命に同意、議案14件を審査し可決しました。

「旧魚正跡地の処置に関する請願」は賛成多数で採択されました。



ふくおか  
市民政治・ネットワーク

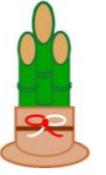


「市議会議員選挙の年末年始に実施される日程を

変更することを求める請願」

ネット賛成

⇒賛成少数につき否決



○現在の投票日は合併の弊害・・・

平成17年1月24日の合併と同時に議員は失職し、選挙がおこなわれるはずでした。合併特例最長の2年の任期延長を津屋崎・福間両町の議会で可決しました。このことにより、平成19年1月23日までの任期となり、選挙を12月24日から1月22日に行うこととなりました。

ネットワークは、4年毎に年末年始に行われる選挙が、はたして市民にとってどうなのかという点もあり、2年延長に反対しました。懸念した通り、投票率は毎回下がっています。前回投票率は47.05%です。(2003年4月(合併前最後の統一地方選挙)投票率は、旧福間町60.39%旧津屋崎町75.10%)

○議会が受け止めるべきは・・・

投票率は、実施時期の問題ではなく、選挙や議会に対する有権者の関心の度合ということもいわれます。だとすれば、毎回下がる投票率が何を表しているかは明確です。現在の福津市議会に、市民が関心を持っていない・期待していないということです。議会は、このことを真剣に受け止めなければなりません。

○年明けの選挙日を選ぶことは・・・

選挙には、立会人や選挙公報の配布など多くの市民が関わっています。自治会に、立会人等の依頼を受けることもあります。今回の請願では、『年末の開催ではサポートする市民の「痛み・苦しみ」を生んでいる』とあります。年始・年明けの選挙日であれば、選挙管理委員会で決めることができます。

しかし、福津市の場合、年明けの選挙ということになれば、成人式や成人祝賀駅伝等、職員の関わる行事もあります。また、選挙への異議申し立てがあった場合を考えると、1月13日・20日の選挙日を選択するのが難しい場面があると推察することが出来ます。

今までもそういう理由から年末の選挙が実施されてきたのだと思います。

選挙日は選挙管理委員会が決めるものであり、議会から選挙管理委員会にモノ申すことは出来ませんが、この請願に賛成することで、選挙管理委員会が1月13日・20日の選挙日を選択することを後押し出来ると考えます。

☆ネットの考える選挙日は・・・誰もが行きやすい事

議会では、平成28年度に任意の会「議会改革研究会」を設置しました。この中でネットは、現在の選挙日について議会を変更すること・考えることを提案しました。しかしながら研究会は「選挙管理委員会にゆだねる」と結論を出しています。

私たちが、日々市民から聞く意見では、12月・1月の選挙を避けてほしいと言う声が大半です。

平成18年3月議会では、「議事を早期に解散し10月に福津市議会議員選挙を実施することをもとめる請願書」が出されていきました。ネットワークは、障がいのある方・ない方、高齢の方、子連れの方、さまざまな市民が投票に行きやすい時期にするというのも大切なことだと思い賛成しています。

宗像市も合併していますが、在任特例では1年7カ月を選択し、10月の選挙になっています。

議案から：

ボランティアセンター条例(ネット賛成⇒全員賛成)  
中央公民館の図書室跡を改修し、ボランティアセンターが設置されます。センター機能が充実し、常時2名体制の運営になります。

市長公約の女性副市長誕生！（全会一致）

松田 美幸氏(まつだみゆき)

(前福岡県男女共同参画センターあすばる館長)

一般質問から



自分の性の違和感に悩む子どもたちは、本当の自分を出せず、着ぐるみの中に自分を閉じ込めている状態だと言います。自分を否定しながら過ごしていると言います。それゆえに、自分を大きな存在とも思えず、未来を描くこともできません。



多様な性について周りの大人が正しく知り、見つけ出すのではなく、言える環境を作るのが重要だと思います。一人ひとりを大事にする福津市になってほしいと思い、教育現場での研修や、市民への啓発を提案しました。

☆被災自治体に学ぶ

平成28年の熊本地震の際、熊本市男女共同参画センター「はあもにい」は、女性や母子世帯の避難所になりました。

平成29年の豪雨被害の朝倉市では、被災後1カ月で、全国初の「災害母子支援センター」が開設されています。

被災時に、後回しにされる母子支援ですが、母子が支援されることで、家族が団結し再興されます。コミュニティの最小単位である家族がしっかりすることで、地域やコミュニティの復興を成し遂げられるのです。

福津市の防災マニュアルに、母子支援をいれるように提案しました。